

1. 2016年度報告

創立40周年(2022年)を目途に、新たな第二ステージの完成を目指すべく具体的な目標の策定を行った。人文社会科学系および理系双方の視点から、グローバル人材開発教育を更に推し進め、アジアの交流校のハブおよび地域のグローバル化の拠点となることを目指す取り組みを行った。

(1) グローバルリーダーとして活躍する人材の育成 –SGHプログラムを通して–

人文社会科学系プログラムであるSGH(スーパーグローバルハイスクール)を活用し、大学のコアとなる人材、グローバルリーダーとして世界の平和や人類の幸福の実現に貢献できる様々な人材育成の活動をおこなった。

- ・SGH活動の2年目の中間報告として2016年12月19日～22日の4日間、高校生国際シンポジウムPre-WaISEC(Waseda International Symposium on Education and Culture)を主催、国内から3校、韓国・台湾・中国から4校を招待し、SGHプロジェクトの成果報告や研究発表、コンペティションなどを実施した。
- ・修学旅行をベースにした中国・韓国・台湾の協定締結校との交流を更に深化させた。例えば台湾の臺中市立臺中第一高級中等学校は、隔年に本学院を訪問し文化・学術交流を行い、着実な協同成果をあげている。

(2) 科学教育のさらなる発展 –さくらサイエンスプラン(2016年度採択)を通して–

- ・National Junior College(シンガポール)と、SSHを通して構築したサイエンス分野における双方向の学術交流を2016年度も継続して行った。

(3) 7年間の高大一貫教育の工夫・充実

- ・新カリキュラム適用2年目において、3年時における理系コース選択者が大幅増となり、進路選択における文理のバランス化を図った。
- ・探求型学習指導の実践に向け、卒業論文を週1時間の「課題探求」の時間として2017年度からカリキュラムに組み込むことを決定し、新たな評価方法も確立した。
- ・学業成績だけでなく、思考力や判断力、意欲、主体性など多面的評価によって学部推薦を決定するG選抜制度の制度設計を行った(2018年度開始)。

(4) 学際型科目の設置、地域の環境を活かした教育の展開

地域の環境(大久保山に位置するキャンパス)を活かし、学際的な教科横断型授業を展開する。

- ・本学院独自の教科横断型プロジェクトである「大久保山学」をカリキュラム内(「総合的な学習の時間」)に位置づけ、2017年度開講の準備を整えた。学際的な知見の習得とともに、知識や学問が教科の垣根を越えて实际的に活用されることを体験させる。

(5) 女子生徒寮新設を核とする全国・世界型募集形態の拡充と男女共同参画に向けた取り組みの強化計画整備

- ・Vision 150の本庄高等学院の将来展望に示したとおり、「全国・世界型」を更に進めるとともに、女子寮新設(2018年度竣工予定)を機会に「男女共同参画」にも積極的に取り組んだ。「寮」を有する直系の附属校としての特色や存立意義を再確認・強化するための具体的な計画の策定に入った。

2. 2017年度計画

継承と発展をキーワードにこれまでの教育成果を踏まえつつ更なる革新を遂げ、附属高校としての責務を果たすだけでなく、アジアの交流校のハブおよび地域のグローバル化の拠点を目指す。

○早稲田大学のSGUを牽引できる人材、グローバルリーダーとして世界に貢献する人材の育成

- ・2015年に文科省より指定を受けたSGH(スーパーグローバルハイスクール)プログラムの3年目の活動を充実させる。
- ・修学旅行をベースにした中国・韓国・台湾の協定締結校との交流、他のアジア各国の高校との文化・学術交流を深化発展させる。こうしたアジアのトップ校との双方向的且つ実践的交流を通して多様な価値観を醸成する。

○高大一貫教育の充実

- ・「課題探求」としてカリキュラム上に設定した「卒業論文」の指導を、学校全体の取り組みとして、その実践を更に強化する。また、論文指導においてGECを含む大学や学部からの協力を組み入れる。具体的にはGECのライティングセンターからの論文指導や、課題発見のためのアドバイス、研究手法の伝達、実験の補助、自然科学論文の作成上の注意や完成に向けた相談などのサポートを各学部の先生方や大学院生から受ける。
- ・2017年度より施行の新しい留学制度を整備・充実させグローバル化を推進する。特に高校版の留学のための「海外協定校」の開発を留学センターと相談しながら進める。
- ・学業成績だけでなく、思考力や判断力、意欲、主体性など多面的評価によって学部推薦を決定するG選抜制度を2018年度(2019年学部1年生)から開始するにあたり、学部入学後の活躍も何らかの形で追跡調査できる体制を構築する。
- ・各学部の「英語学位プログラム」に積極的にチャレンジできる生徒の育成を図る。開校以来受け入れてきた海外帰国生(2017年度募集定員45名)など、英語上級者を対象とした授業を実施することで英語力の維持・伸長を図り、進学後に英語による授業履修のみで学位取得できる能力を養成する。

○教科横断型授業、地域の環境を活かした教育の展開

- ・本学院独自の教科横断型プロジェクトを「大久保山学」としてカリキュラムに位置づけ2017年度より開始する。学際的な知見の習得だけでなく、類まれな自然環境や歴史的遺産を背景に、知識や学問が実際に活用されることを体験させる。

○女子生徒寮新設を核とする全国・世界型募集形態の拡充と男女共同参画に向けた取り組みの強化

- ・Waseda Vision 150の将来展望にもあるように本学院は将来的に「全国・世界型」を更に進める方針である。寄宿制度が可能な「寮」を有する直系の附属としての存立基盤を強化する。
- ・全国・世界から集う優秀な女子生徒の入寮を図り、早苗寮と並んで本学院における寮教育の充実を目指す。
- ・入試におけるジェンダーバランスを検討し将来的に男女共同参画社会の担い手になれるような教育を押し進める。

○第22回全国私立大学附属・併設中学校・高等学校私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会(附属校サミット)の開催

- ・本学院は2017年10月に開催される全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会の開催校となる。本事業の企画・立案・運営において早稲田大学の各機関からも協力を仰ぎながら、実施体制を構築する。